

新火葬場建設説明会でのおもな意見

7月2日（土）南姫公民館にて開催した、新火葬場建設説明会にご参加いただき誠にありがとうございました。説明会でお聞きしたおもなご意見とその回答を次のとおりまとめましたのでご覧ください。

日 時 平成23年7月2日（土）午後7時～
場 所 南姫公民館
参加者 83人

○質問 19年度に選定された最終候補地（高田町等）を、今回の候補地から外した理由を教えてください。

高田町の候補地については、射撃場跡地で鉛の汚染問題があって現在は施設を閉鎖しています。鉛の除去に膨大な費用がかかること、進入路を整備する必要があること等の理由により候補地から外しています。笠原町森下の候補地は、地形が縦長であり、緩衝緑地などを配置すると建設に必要な面積を十分確保できないことから外しました。金岡町は民間地権者からの提案でしたが、住宅地の中にあり進入路の確保が困難と考えました。長瀬町は、現在、火葬場への進入路が民家のまさに軒下を通っているという問題があります。これを解消するための新たなルートの整備について検討しましたが、多くの時間と費用が必要になることが試算されたため候補地とするのは難しいと判断しました。

○質問 長瀬町は住宅が近いから建替えはできないとのことですが、もともと火葬場があったのに、なぜ住宅団地の開発を認めたのですか。最初から道路用地等を確保しておけばよかったのではないですか。

火葬場と周辺の住宅は、ほぼ同じ時期に建ちはじめたものと聞いております。当時はまだ市内に多くの農地や山があり、周辺の山間部についても現在のように民間の開発が進んでいませんでした。そうした状況から、当時の行政としてはそういう考え方を持てなかったものと思われます。

○質問 住民の理解が採点の割合中20%というのは低いと思います。コンセプトや周辺環境がどうかということではなくて、多少不便でも1km四方に民家の無いような場所を選ぶべきです。最初から4候補地のうち2箇所が大藪町だということに納得ができません。

配点については、手本とするべき指標があるわけではないため、6名の委員が話し合う中で決められたものです。委員の中には環境の専門家、建築の専門家、市民団体の代表などいろいろな方がいらっしゃいますが、そうした色々な立場の方たちで検討し、今回は、この割合の中でそれぞれの委員が採点をした後に、全体で順位を決めるという方法をとられたものです。土地については、前回の委員会では、まとまった面積がある土地を、市有地の中で選び出し、その中でも、土地の形状や周辺の状況などを検討して数箇所に絞っていきました。また、今回の委員会では、市有地以外にもそうした土地がないかを確認していき、候補地として取り上げたものです。

○質問 大藪町での説明会で、土地の取得に関する個人との交渉は、市として一切していないということでしたが、実際は交渉しているのではないかという話を耳にしました。本当はどうなのですか。

以前にも回答した通り、市として周辺の地権者への交渉は一切おこなっていません。

○質問 これまでに町内会の説明会で何度も今日と同じ話を聞きました。火葬場建設の話が出てから、地域での人間関係が悪くなりました。ここに住むものの身になって考えて欲しいです。

昨年12月に建設検討委員会からの答申を受けて以降、大藪町第5町内会を対象とした説明会は実施しましたが、30区全体への説明会は今回が初めてになります。そのため本日の説明内容の中には、第5町内会で説明した内容と重複する部分がありますが、ご理解願います。

○質問 自然環境のよさ、心の和むところであることを望んで私達はこの土地に住んでいます。そのことを考えて、火葬場は別のところに建てて欲しいです。

この地域の自然環境のよさや、心のなごむ場所であることが、新火葬場の新たなコンセプトについても適した地域であると考えられ、委員会に選定され答申を受けました。騒音などの公害面でご迷惑をおかけすることなく、また建物の外観や周辺緑地の整備などにも配慮して施設を建設したいと考えています。

○質問 緑を多く残して暑い多治見を涼しくしようという考えはないのですか。市街化調整区域の森林を伐採してまで火葬場を建てるのですか。

森林の伐採を極力抑えること、温暖化対策として緑を多くしようというご意見には全く異論ありません。しかし、火葬場は各都市に必要な施設であり、行政として整備しなければならないものでもあります。開発していく中で、できる限り緑を多く整備していきたいと考えますし、地域の皆さんのご意見を聞いて、軌道修正できることは極力修正しながら進めたいと考えています。

○質問 ため池は、市有地になる前に地域の人のために作られていた構造物です。市が火葬場をつくるからといって埋め立ててよいのですか。どのくらいの人反対したらやめるのでしょうか。

ため池は、以前は国有地でしたが、その後市に移管されたため、現在は市有地となっているものです。当時農地等を持っていた方で、この池から利水されていた方が利用者であったということになりますが、248号バイパスができた時にため池としての機能は終了しています。それ以降は、平成19年まで実際水が溜められていなかったことを、航空写真などで確認しております。数年前から大藪ため池の改修にともなって水が溜められていましたが、その間も、利用はなかったと聞いています。なお、手続き上ため池の廃止は許可されるものではなく、市が県へ届出するもので、届出に基づいて県がため池台帳から削除するという流れになります。しかし届出であるとはいえ、一方的に廃止することはなく、水利組合などとしっかり相談して進めていきたいと考えています。

○質問 水利組合へは相談するだけです。理解されなくてもつくるといことですか。

多治見市の土地だから多治見市が何をしてもよいという考え方ではありません。このため池については、現在池の水を使って農業をされている現状がなく、当初設置した目的をすでに完了しています。また、岐阜県からは、「廃止の検討が必要である」との回答を得ています。そうした状況から、かつて水を使っていたらあった水利組合の皆さんへしっかりと説明や相談をした上で、進めていきたいと考えます。

○質問 去年の大雨の時、バイパスを降りたところに、すごい勢いで水が流れていました。きっとあの水の一部は池にたまっていたと考えますが、その池を埋め立ててしまうと、もっとすごい水が地域へ流れ込むことになるのではないかと心配です。

昨年大雨でそうした大変な状況があったことは、承知していますし、担当する道路河川課でも、翌日現地を確認しています。そうしたことも踏まえて、建設の際には雨量計算を実施し、調整池の設置や河川の改良などの対応策を考えていきます。

○質問 民生委員をやっていますが、その研修でも地域のつながりを大切にするようにとの話がありました。私達は地域で支えあって生活しており、住み慣れたところで安心して暮らしたいと誰もが考えています。今回の火葬場建設は、市がこの場所がいいからといって一方的に地域へ押し付けるものです。市は理解していただけるよう努力すると言っていますが、私達が根負けするのを待っているようにしか思えません。

第5町内会で先に説明をおこないましたので、そちらにご参加いただいた皆様には同じ内容の繰り返しになる部分もあるかと思います。しかし、他の町内にお住まいの方の中にも、建設地周辺に農地等をお持ちの方がいらっしゃることから、30区全体への説明も必要と考え説明会を開催いたしましたのでご理解をお願いします。また、昨年から経過報告会の開催等を行い、これまで市としても手順をふまえて進めてきておりますが、まだまだ皆さんにご理解をいただいているとは言い難い状況もありますので、説明をさせていただいております。

○質問 検討委員会の委員はそれぞれどういう理由で選ばれたのですか。

学識経験者としては、火葬場や建築及び自然環境に関する専門家の方、市民団体としては、市全体としてのご意見をいただくものとして区長会の方、市民の生活に直結する部門ということで福祉関係の方、最後に自然環境に関する市民団体の代表の方です。

○質問 委員は他の候補地や地域とは縁故関係のない方ですか。

そうした関係のない方であると把握しています。

○質問 遺体を火葬する場所に、心が癒せる空間がそんなに必要ですか。

多治見市の現在の火葬場の状況はご存知のことと思います。最後のお別れの場に相応しい施設となるよう、他市の先進事例等を参考に検討を進めていきたいと考えています。

○質問 市外の方が火葬場を利用することもありますか。可児市今区の住民の意見は把握していますか。

市外在住の方の利用は現在の火葬場でも受けており、その場合は通常料金の倍の使用料をいただいています。なお、市外在住の方の利用については、通常料金の3～5倍の料金設定をしている市町村もあります。可児市今区の住民の方のご意見については、3月末に建設反対の署名を受け取りました。今区の自治会が全体で143世帯ある中、109世帯の署名があるとのことでした。

○質問 国からの補助金はどのくらい貰えるのですか。

合併特例債を利用して建設したいと考えていますが、これは事業費の95%に適用され、その利息と元本の7割を国が負担してくれるという制度ですので、概ね7割を国の負担で建設できることになります。

○質問 以前新聞で、遺族が持ち帰らなかった遺灰の管理が適正に行われず、土壤汚染に繋がったという記事を目にしました。そんな施設をライスセンターの近くに造るのですか。遺灰の処理はどうなるのですか。

遺灰の処理については、これまでも専用の容器で保管し、専門業者に全量引取りを依頼しています。土壤汚染はあってはならないことですので、新火葬場においても引き続き適切な対応をしていきます。

○質問 財政が厳しいということであれば、見学会などで余分なお金を使うことはやめるべきではないですか。

最新の施設をご存知でない方もありますし、バックヤード（火葬炉等）を見ていただくことで施設の安全安心を確認していただけます。お時間があれば是非参加していただきたいと考えています。

○質問 これまでも第5町内会の説明で、見学会には参加しないと言ってきました。それなのにまた案内をされていますが、市の要求にそんなに従わなくてはいけませんか。

本日お越しの方の中には、見学会の開催をご存じない方もいらっしゃいますのでご案内させていただきました。お時間がありましたら是非ご参加いただければと思います。